



身近な自然の観察・記録活動 石神井川緑道版

2023.7.13

一人ひとりの自主活動 だれでも参加できます

活動：月2回(第二木曜日・第四金曜日)(雨天は小雨でも中止)
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫 com-matchan@hotmail.co.jp

2023年8月までの石神井川観察は、7/28(金)、8/10(木)、8/25(金)

9:30JR社宅(イーストハイム)前街路観察 10:00 帝京大学病院北側の御成橋から再出発

考えて作った植え込みのはずなのに、植物が生きられない！



←帝京大学附属病院前の遊歩道が整備されて、いろいろな異変が起きていることは度々レポートしてきましたが、7/13の観察では、ここに植え込まれたキンシバイがほとんど



と枯れていました。右上の写真は別の場所で咲き残っているキンシバイ。これに比べたらここのキンシバイの悲惨さは改めて説明を要しません。野草の中でも生命力が強いハキダメギクさえも枯れる(右下)カサカサの地面になってしまいました。ここ

に生きる植物のことなどを考えない街路樹設計です。雨水を全部下水に「捨てる」設計

このアスファルトは雨水浸透性ではないようで、降り注いだ雨水は赤丸囲みの穴から下水に流



すようになっていきます。これでは植え込みには真上からの雨水しか落ちてきません。真上は桜の枝が張っているので、雨水は桜の根元には落ちず、結局、植え込みにはまったく水が補給されない構造になっているのです。路面の高さを調整して、雨水がまず植え込みに流れ込むような設計・施行ができないはずはないのですが、植物を生やさない道路づくりなら、確かに納得！

見たことのない植物がそろそろ出てくる！？



昨年あたりから「これまで見たことのない植物」が増えました。左上はネムノキではないかと思われませんが、あとの4枚は同定できません。石神井川観察に参加して3年目のお仲間、わたしよりもはるかに植物に詳しい行成さん



が首をかしげるのですから、分からないものは分からない！

土をひっくり返したり、他所から持ってきたりすると自然が変わるという見本を目の当たりにしているようで、いやはや勉強になります。もっとも、こちらの勉強不足が「不明種」続出の最大原因なのですが、もともと同定が難しいイネ科、カヤツリグサ科の植物を含めて、この日は20以上の「分からない」植物が「??」で記録されました。

「こいつは変だぞ！」の2種

↓小穂の形がオヒシバに似ているけれど、それよりも柔らかい感じがする草。オヒシバなら小穂は3本、小穂1本のイヌビエでもないし・・・？



それよりも柔らかい感じがする草。オヒシバなら小穂は3本、小穂1本のイヌビエでもないし・・・？

右写真は小穂の形はエノコログサなのに、1か所から3つもの小穂を出しているなんてどうなっているの？

